

事業報告書

団体名：NPO 法人亀岡子育てネットワーク

1. 事業名	0・1・2・3歳親子 room COCO いく
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)

【事業期間：4月1日～3月31日】

くらす		開催日数	延べ参加人数	場所
はじめてくらす (ハピーマッサージ)	1ヵ月半～はいはいするまで	9回	79組 (158人)	ふらっと HOUSE
ぐっぐくらす	ねんね～おすわりの頃 (4ヵ月～7ヵ月ぐらい)	10回 (約月1回)の月曜	79組 (158人)	
ちっちくらす	はいはいの頃 (8ヵ月～11ヵ月ぐらい)	10回 (約月1回)の月曜	79組 (158人)	
ぱっぱくらす	たっち・あんよの頃 (11ヵ月ぐらい～2歳)	10回×2くらす (約月1回)の月曜	139組 (278人)	
ドキはぴくらす	元気いっぱい頃 (2歳～就園前)	19回 第1・第3火曜	196人	旧一の宮幼稚園
特別講座	救急救命のおはなし	1回(11/20)	4人	ふらっと HOUSE
	歯のおはなし	2回(11/7, 1/30)	13組 (26人)	
特別イベント 「みんなあつまれ！COCOいくっこ！」		1回(2/23)	23組 (46人)	ガレリアかめ おか響ホール
計		72回 /	1,024人 /	

【内容】

現在亀岡において、家庭で子育てしている親子は、自由に遊びに行ける「ひろば」や地域に根ざした「サークル」などを自由に選択できたり、一時保育のある施設を選択できたりと、10数年前に比べると、とても子育てしやすいように変化してきている。にもかかわらず、出産から乳児期・乳幼児期にかけ、家に閉じこもりがちで、人のかかわりを持ちにくい人たちも多数みられ、子育て期特有の孤独と不安を感じている人が多い。また、社会の変化に伴い、メディアの影響や電子機器の影響を多数受け、便利な子育てアプリ等の乱用により大切な親と子どもの本当のふれあいが希薄になってきていると感じる。これらは、年々増加傾向にある核家族の家庭においては、祖父母や近所のおせっかいなおばさんなどから昔ながらの子育てのノウハウを教わる機会が減少したことや、情報化社会ゆえの情報の氾濫が原因と考えられる。また、出産年齢が20代前半から40代前半と幅広く、特に30代後半から40代前半に出産し子育てに奮闘している方の多くは、わからないことを気軽に聞きにくい傾向にあり、「ちゃんと育てなければ」というプレッシャーから精神的に疲れやすい傾向がみられる。そして、出産年齢の高齢化とともに、祖父母の高齢化が考えられ、祖父母を頼れないというのも実情である。かと思うと、20代前半で出産した方の中には、祖父母も若く現役で仕事をしているが為に、気軽に

頼れないという傾向もみられる。いずれにしても、子育てにおいて、核家族化が母親の孤独感や不安感を拡大させ、気軽に話せたり聞いたりできる機会を持ちにくい原因の一つとなっている。また、私たち亀岡子育てネットワークでの他事業「ゆりかごひろば」や「講座」や「一時保育」等で、現在の親子と数多く関わるうち、育児書やメディアから与えられるいろいろな情報ではなく、その子どもに合った子育てのノウハウを伝えるべきではないかと考えた。また、ひろば等で相談を受ける中で、これからの課題は、母親の心の安定をはかり、子育てが「つらい」だけではなく「楽しい」と感じられるよう、そして少しでも孤独感や不安感を減らし、笑顔を増やし、一人一人の親が力をつけていけるようフォローして行くことが必要なのではないかと考えた。

そこで、この“COCO いく”では、前年度は生後4ヵ月から参加できる講座を開催してきたが、今年度はもっと早い段階から外に出るきっかけがもてるよう、生後1ヵ月半から参加できるベビーマッサージ講座を追加した。ベビーマッサージ講座では、母親が外に出て誰かと話をし、子育ての孤独感や不安感を減らしたり、親子が肌と肌でふれあい、子どもはもちろんのことそれ以上に母親が心地よい気持ちになり、親子の愛着が深まることを目的とした。また生後4ヵ月から保育所(園)幼稚園へ入園するまでの親子には、その子どもの月齢によってクラス分けをし、月齢や発達に合わせて親子が自然にふれあうことできるあそびを通して親子の愛着形成を促し、また、子育てのノウハウを伝えることで子育て期の不安や大変さを乗り越え、子育てが楽しいと思えるように導いていけることを目的とした内容とした。さらに、母親の心の安定が子どもに大きく影響することをふまえ、母親が他の参加者やスタッフとコミュニケーションをとるうちに、心が安定していけるような内容とした。そして、「母親が笑っていると、子どもも笑ってくる」「母親が楽しいと、子どもも楽しくなってくる」ことを伝え、まずは、ゆったりと子育てできるような気持ちに導くよう配慮した。また、それぞれの子どもの特性を認め、その子どもが本来持っている力を自然に引き出せるよう工夫する内容とした。

他にも今年度は、普段はくらす別に参加している親子が一同に集まってふれあえるよう、特別イベント「みんなあつまれ！COCOいくっこ！！」を開催した。生後4ヵ月～2歳までの幅広い年齢の親子が参加することで、子どもの少しずつの成長が感じられる内容とした。

以下、各クラスの内容。

○「はじめてくらす(ベビーマッサージ講座)」 生後1ヵ月半～はいはいするまで

(兄弟の保育付き)

10時～12時：助産師によるベビーマッサージ。ママのティータイム、交流。

○「ぐっぐくらす」ねんね～おすわりの頃 生後4ヵ月～7ヵ月ぐらい

「ちっちくらす」はいはいの頃 生後8ヵ月ぐらい～10ヵ月ぐらい

「ぱっぱくらす」たっち・あんよの頃 生後11ヵ月ぐらい～2歳

(兄弟の保育付き)

10時～11時：親子のふれあいあそび、てあそび、リズムあそび、運動あそび、ママのストレッチ、クッキング、季節の歌、季節の製作、手作りおもちゃ、絵本の読み聞かせなど

11時～12時：子育てのお話し、ママのティータイム、子どもの成長の記録(アルバム)作り
ママ同士の交流、悩み相談など

○「ドキはぴくらす」元気いっぱい頃 2歳～

10時～12時：4、5月の親子体験後、6月からは子どもだけの活動。

3月17日は親子でのおたのしみ会

リズムあそび（歌・楽器）、運動あそび、えのぐあそび、新聞あそび、
表現あそび、絵本の読み聞かせなど

○「救急救命のおはなし講座」（保育付き）

10時～11時：市の救急救命士による乳幼児のけがや病気の話や対処方法についての講座

11時～12時：質疑応答、参加者同士の交流

○「歯のおはなし講座」

10時～12時：歯科衛生士による子どもの歯の話や、母親の歯のケア等の話。

参加の子どもの歯のチェック、質疑応答、参加者同士の交流

○特別イベント

「あつまれ！COCOいくっこ！！」生後4ヵ月～2歳

10時半～11時半：親子のふれあいあそび、「おはなしポケット」さんによるおはなし

運動あそび、バルーンあそび、写真展示

3. 効果

実施による効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

【はじめてくらす】 生後1ヵ月～はいはいするまで

参加者の多くは、チラシや亀岡市の発行の広報を見てドキドキしながら参加申し込みし、産後初めてこういった場に出かける方、一人で参加される方が多数を占めた。その多くは、参加当初、子育てに戸惑いと不安を持っており、母親の表情も硬く心も体も緊張している様子がみられ、参加者同士もなかなか交流しにくい様子であった。

今年度は生後1ヵ月半から参加できるよう講座を設定した結果、産後の早い段階から家にとじこもって孤独や不安を感じている母親が外に出て人と交流するきっかけを作れ、母親同士やスタッフと交流したり、親子がふれあうことで、孤独や不安をやわらげることができたことは大きな成果といえる。また、母親同士が連絡先を交換するなど、ママ友だちを作れるきっかけとなったことも大きな成果だろう。そして、初めのうちはどんな感じで、どのくらいの力加減で赤ちゃんをふれていいのかわからなかった母親も、少しずつ少しずつそのごちなさほぐれていき、また、助産師から産後の母親の話や赤ちゃんのお世話についての話を聞いたり、あったかいお茶とお菓子を食べながら参加者同士交流したりするうちに、心と体の緊張もほぐれ、こわばっていた母親の顔が少しずつ笑顔に変化していった。

【ぐっぐくらす】 「ねんね～おすわりの頃」生後4ヵ月～7ヵ月ぐらい

やはり、参加者の多くは、産後初めてこういった場に出かける方や、一人で参加される方が多く、子育てに不安を持って参加される方が多くみられた。母親の表情は硬く、やはり心と体が緊張している様子がみられ、赤ちゃんを抱く姿もぎこちなく、どのくらいふれていいのか、どの程度の動き（ふれあい遊び）なら大丈夫かもよくわからない方がほとんどであった。そこで、母親の心身の緊張をほぐす為に、母親のストレッチを取り入れたり、子どもの体に自然に触れられるよう親子で遊びを通して「赤ちゃんをまるく『ギュッと』抱きしめる」「目を見つめ合ってお話」「目を見て話しかける」「抱っこしてゆれる」「声をかける」ことを具体的に、そして何度もくり返し伝えられるよう工夫していった。

その結果、講座の途中や、続けて参加しているうちに母親の表情も少しずつ変化し、とてもやわらかな笑顔が見られるようになってきた。また、なるべく母親が「声」を出ることができるよう、「自己紹介」や「今日のお題のおはなし」タイムなど他の参加者と話ができる「しかけ」を設け、スタッフや他の参加者と会話をするうちに、心の緊張もほぐれ、楽しんで子どもとふれあい遊びをすることができるようになってきた。やはり、スタッフや他の参加者と話をすることで、心のリフレッシュができ、心がやわらいぎ、孤独や不安の解消へとつながったと考えられる。また、周りの子どもに刺激を受け、つぎの動きへ進みたいと感じている子どもの姿が見られた時には、大人のほんの少しの補助で子どもが次のステップへと進めることを伝え、子どもにとって無理強いせず導くようなコツを伝えたことで、母親はコツをつかみ、楽しみながら子どもの次のステップへのお手伝いができるようになっていったと考える。また、その日のテーマに沿った子育ての話の中で、子どもの発達や行動の意味、遊びがもつ意味を伝えることで、子どもの特性を理解し、より一層親子の遊びを楽しむことができるようになったと考えられる。そして、母親が子どもとふれあうことを楽しむことにより、子どもも母親の目を見つめほほえみ、そしてまた、その子どものほほえみを見て母親がほほえむといった相互作用で、お互いの見つめ合いが親子の愛着形成において、よりよい方向へとつながっていった。

【ちっちくらす】 「はいはいの頃」 生後8ヵ月ぐらい～10ヵ月ぐらい

“ぐっぐくらす”から引き続き参加している方は顔見知りにもなり、毎回笑顔で参加しているが、“ちっちくらす”から初めて一人で参加した方はやはり緊張の面持ちで、心も体も緊張している様子がみられた。そんな緊張をほぐせるよう、また他の参加者の中で孤独感を感じないようにスタッフが配慮し、楽しさを感じて次回も参加したいと思えるように丁寧に対応した。親子の遊びも、参加者が子どもの成長が感じられるよう、また「こんなことができるようになった」と喜びを感じられるよう、少しずつ遊びを変化させていくが、遊びの基本である「抱きしめる」「見つめる」「声をかける」をくり返しくり返し伝えられるようにしていった。また、おもちゃに興味が出始めたこの頃、家にあるものなどで簡単に作れるおもちゃと一緒に製作したり紹介したりしながら、高価なものでも身近な物や遊び方で子どもにとっては良いおもちゃになることを伝え、遊びがコミュニケーションの一つであり子どもが成長する上でとても重要なことであることを伝えていった。

その結果、子どもと何度も何度も声をかけてふれあって遊ぶ楽しさを味わい、母親の笑顔も少しずつ増えていった。また、母親も子どもとふれあうことに自信が出始め、子どもとふれあう度合いや力加減も少し大胆になってくると、子どもの喜ぶ表情もより豊かになっていった。すると、母親もより楽しく遊ぶことができ、親子で声を出して楽しむことができるようになってきた。くり返し遊ぶことの大切さや、目を見つめて遊ぶことの大切さを伝えていくうちに、母親も子どもと向き合って遊ぶ楽しさを実感できたようだ。また、場所にも雰囲気にも慣れ、スタッフと話す内容も少しずつ変化し、成長を喜ぶ話とともに、気軽に悩みを話せる場となったことは、母親の不安を解消するうえで大きな成果といえる。

【ぱっぱくらす】 「たっち・あんよの頃」 生後11ヵ月～2歳

“ちっちくらす”から続けて参加される方が多く、毎回とても和やかな雰囲気の間になった。このクラスでも、新しい参加者が、継続して参加している方の輪の中で孤独や不安を感じないように、スタッフが配慮していった。子どもの成長と共に、親子の遊びにも幅が出てくるので、なるべく親子で体を使った遊びができるような内容を工夫した。基本である親子のふれあい遊びを中心に、はいはいしたりジャンプしたりと体全体を使った運動遊びやマラカスや鈴、ダンボール太鼓など音やリズムを楽しんで遊んだり、親子で楽しく遊べるよう工夫し

た。また、家にある新聞紙やダンボール、廃材（トレイなど）を使って、家庭でも楽しく遊ぶことができる方法を紹介したりと、簡単かつ楽しい遊びを随時伝えていったり、簡単な料理を一緒にすることで、子どもが楽しんで調理したり、食べたりする姿の大切さを伝えていった。同じ遊びでも、子どもによっては遊び方も違ったり、遊びが変化したりすることに参加者たちも驚き感動し、大人が子どもの遊びをそっと見守りつつ、時には相手になり、子どもの持つ力を引き出せるようなコツを伝えていった。そして、やはり「抱きしめる」「見つめる」「声をかける」をくり返しくり返し伝えていった。

その結果、継続して参加している方のほとんど全員が、親も子も「楽しい！」という表情で過ごし、心が安定している様子がうかがえた。そして“ぐっぐくらす”“ちっちくらす”から参加している方の中で、参加当初は子育てが「しんどい…」「つらい…」と訴えていた方も笑顔が増え、元気な様子になっていき、子育てが「つらい」だけのものではなく「楽しい」と感じられるようになったことは大きな成果といえる。

【ドキはびくらす】「元気いっぱい」の頃 2歳～未就園児

昨年度から継続して参加する子どもは慣れた様子で、月に2回のこのクラスを楽しんだ。初めて参加する親子は親子共々、「親子が離れる」ということに不安いっぱいでの参加だった為、その不安を少しでも解消できるよう保護者に対しても、子どもに対しても、一人一人丁寧に対応していった。保護者に対しては、お迎えの時に子どもの様子を詳しく話したり、写真やおたよりを発行することで不安を解消していった。また、子どもができるだけ遊びの中でいろいろな経験ができるよう配慮し、また一人一人の遊びを大事にしながら、友達同士の関わりが持てるよう配慮した。中にはその時間にその遊びを嫌がる子どももいたが、強制するのではなく、無理のない形で遊べるよう工夫し、そのことが保護者にとって「うちの子だけ…」と感じないよう、スタッフが配慮していった。

その結果、保護者と離れる時に泣いていた子どもも、回を重ねるごとに笑顔が増え、その笑顔に保護者も安心していった。また、子ども一人一人に対するスタッフの丁寧な働きかけにより、子ども自身が親以外の大人に認められていると感じ、ますます心が安定していった。そして遊びに夢中になることができ、遊びを通じていろいろな体験をすることができた。また友達の存在も認められるようになり、友達とやりとりしたり、おもちゃの取り合いをしたりと友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じることができるようになった。特に、絵本の読み聞かせの時には、みな絵本の世界に引き込まれ、何度も繰り返して聞いている様子からは、心の安定が感じられた。旧幼稚園の遊戯室を借りての開催なので、体全体を使った運動あそび、マラカスや鈴や太鼓を使った音あそびや、リズムに合わせて動いたりするリズム遊びや新聞紙やダンボールを使った大きな遊びなどを楽しむことができるので、子どもも体いっぱい使って遊び、体力を発散できたようだ。さらに、子どもの自立を促し、これから保育所（園）や幼稚園に入園する準備段階として、大きな心身の成長となったと感じる。また、保護者にとっては、子どもと離れた2時間を思い思いに過ごされているようで、月に2回のこの時間を計画的に、有意義に過ごし、リフレッシュの機会となったようだ。

【救急救命のおはなし講座】

乳幼児の頃におこりうる家庭での病気や急なけがの話やその対処方法を、救急救命士さんから教わった。子育て中には誰もが不安に思っているにも関わらず、なかなか詳しくは聞く機会がなかったり、育児書等を読んでもなかなか理解できなかったりして、何かが起こってしまったからあわてることが多い。そんな時、「こんな時どうしたらいいのだろう」と不安に思っていることをじっくり聞くことができ、質疑応答の時間は大変多

くの質問が出された。なごやかな雰囲気の中で、具体的にわかりやすく教わったので、いざという時に少しでも慌てず対処できるようになると感じた。また、この講座は保育付きだった為、ゆっくり話を聞くことができた。参加者同士の交流の時間も子どものことを気にせず話しができたので、いろいろな話題で盛り上がった。

【歯のおはなし講座】

歯がはえ始めたり、そろそろ歯がはえる時期になると、「どうしたらいいか」不安に思い悩むことが多いが、歯科衛生士さんに教わることで、その悩みも解消できる内容となった。また、子どもと共に母親の歯のケアの大切さも教わり、産後子どものことばかりを優先させてしまう母親にとって「自分」の大切さも伝わった。

また、子ども一人一人の歯のチェックをしてもらうことで、一人一人の相談に応じてもらうことができ、より一層安心へとつながった。

【特別イベント「あつまれ！COCOいくっこ！！」】4ヵ月～2歳

普段の“COCOいく”では、同じ月齢の親子の場であるが、このイベントでは4ヵ月～2歳の親子が一同に出会い、月齢の小さい親子は少し大きい子が遊ぶ姿をイメージでき、また月齢（年齢）の大きい親子は小さい子をみることで、少し前とは大きく成長したことを実感できるような場として開催した。40組近い参加者の予約があったが、2月ということもあり、体調不良の方が多く23組の参加となった。

その結果、ねんねの頃の親子は、寝返りやはいはいしている子どもをみて、「わ～もうすぐはいはいできるかな」と少し先の子どもの成長がイメージできたり、はいはいの頃の親子は歩いている子どもについていこうとしたり、しっかり自分で歩いて遊んでいる頃の親子は、ねんねの赤ちゃんを見てちょっと前の小さい頃を思い出したり、いつもの“COCOいく”とは違ったことを感じられた。また、いつもの“COCOいく”の会場のふらっとHOUSEではできない大きな遊びをと、バルーン遊びをした。子どもだけでなく、保護者が楽しめるように、親子でバルーンの中に入ってもらおうと「わ～」「すご～い」と大きな歓声があがり、風と色を存分に感じられたようだ。子どもが楽しく感じるには、まず親が楽しくなければいけないことを伝えられた。

【全体】

毎回必ず取り入れている絵本の読み聞かせでは、普段どんな本を読んだらいいのかわからないという方が多く、月齢に合った本を何度も繰り返し読んでいった。絵本を見て子どもが喜ぶ姿を見て、母親も絵本を楽しむことができ、購入したり、図書館で借りたりと絵本に親しむことができたようだ。ティータイムで、お茶とお菓子を楽しみながら参加者同士交流でき、「誰かと話ながら、ゆっくりお茶を飲む」という普段ではなかなかできないことを楽しんだり、「自分一人ではない」と思える場ができた。また、毎回、子どもの成長の記録や子育てのヒント、季節の歌のプリントなどを綴ったアルバムを作成していった。その中で、参加中の親子の笑顔の写真を毎回プレゼントしアルバムに貼っていくことで、母親は自分の笑顔と子どもの成長をととても喜び好評であった。それらは、母親の孤独感や不安感を軽減し、自信へとつながったいったと考える。

また、兄弟の保育付きで開催したので、上の子どもは保育にあずけ、日頃あまりかまっていられない2人目や3人目の子どもとゆっくり遊ぶことができたことと好評であった。また、会場である「ふらっとHOUSE」が亀岡駅徒歩2分という好立地でもあることから、車に乗れない方の参加が半数近くみられた。普段車に乗れないと、なかなか交通の便が悪いところへは、小さい子どもを連れて出かけることに躊躇するが、会場が駅前ということで、電車やバス等公共交通機関を利用して参加される方にとっては、とても参加しやすい、出かけ

やすい場となった。アンケートでは、「楽しい！」が一番を占め、「友達ができた」「子どもも楽しそうだけど私が楽しい」「子どもとのふれあい方がわかった」「人と話げできた」「相談できた」「もっと来たい」「もっと回数を増やしてほしい」などの意見が多く、多くの方の子育ての楽しみの一つとなったと考える。

全クラスを通して、親子の遊びの中に「抱きしめる」「見つめる」「声をかける」という子どもと向き合って遊ぶことの楽しさや大切さを伝えることができた。また、参加者を10組前後としたことで、スタッフが母親と接するときに「大勢の中の一人」ではなく、「一人の人」として話かけたり、接したりすることで、母親は自ら自分の存在を認め喜び、母親としての自信や、自分への自信へとつながっていった。そのようにスタッフが一人一人の母親とじっくり話し、母親を認めることで、参加するたびに母親の笑顔が増えていった。また、ちょっとしたことでも悩みや不安を気軽に聞ける場であった為、より一層笑顔が増え心が安定し、「不安」が「自信」へと変化していった。

“子育て”において不安や悩みはつきものであるが、当事者でないとなかなかわからなかったり、“子育て”は大変なものときめつけられていて我慢してしまったり、一人でその不安や悩みを抱え込んでいたりする中で、その不安や悩みをどこでどのようにやわらげていけるか、解消できるかが重要な鍵となってくると考える。また、核家族の家庭や、地域とあまりつながりのない家庭では、より一層その不安や悩みを一人で抱え込み、“子育て”がさらに「つらい」ものとなり、親子共に悪循環となっていくと考える。

“COCOいく”では、生後1ヵ月半から保育所(園)・幼稚園へ入園するまで、家庭で子育てをしている親子を心身共にフォローできる場として大切な事業となってきた。初めて親となった母親は「ちゃんと育てなければ」と思いがちで、片意地貼ったり頑張りすぎたりすることがあるが、“子育て”は無理せず頑張りすぎず、ちょっとしたことなら「まあいっか」と笑顔で過ごせ、“子育て”を少しでも楽しむことができるよう働きかけていった。また、「母親が笑顔になると子どもも笑顔になる」「母親が楽しいと子どもも楽しくなる」ことを伝えたことで、まずは母親が毎日を元気に笑顔で過ごせることの大切さを知ることができたと考える。そして、“子育て”は「一人ではないんだ」「地域の人がいる」「地域の中にいる」ということを実感できるよう温かく包み込んだことで、親として一人の人としての自信を身につけ、子どもとの生活の楽しさを味わうことができてきたと考える。

“COCOいく”に参加した親子が当団体の他事業である、「ゆりかごひろば(千歳町)」「ゆりかごひろば 亀岡駅前(ふらっとHOUSE)」「一時保育 りとっぼ」を利用することも多くみられ、子育て中の人にとって、より地域とつながることができたことは、当団体が複合的な事業を行っていることで大きな効果があったと考える。また、「ゆりかごひろば」等で少し気になる親子を“COCOいく”につなげ、しっかりフォローできたことも大きいと考える。

また、亀岡市の乳幼児4ヵ月健診や11ヵ月健診などでチラシを配布させていただいたり、亀岡市の広報「キラリ☆かめおか」へ毎回掲載していただいたことで、多くの参加者につながったと考える。公的などところで広報できたことで、本当に情報が必要な方に周知できたり、産後「出かけたたい」と思った母親にとって安心して参加を申し込める場となったと考えられ、協働が事業の効果を一層大きくできた。

全体を通して、子どもの心の安定はもちろん、母親の心の安定を図り、「不安」を「自信」へ変えていくことができ、つらくなりがちな乳児期の子育てを楽しむことができるようになったと考える。その結果、親子の愛着形成を促し、親も子も明日への力を身につけていくことができたと考える。今後も、こういった親子が育つ場が必要だと考え、来年度も引き続き開催していく予定である。そして、現在の母親のニーズに応えながら、

常に母親に寄り添える場になるよう努めていきつつも「大切なこと」「伝えたいこと」「伝えなければならないこと」を伝えていける場としていきたい。そして、母親の心の安定を図り、一人一人の親が力をつけていける場であるよう努めていきたい。

【今後の課題】

各回の参加人数を、母親の心の安定や自信につなげることを目的としている為、定員を少人数の10組としているが、申込みが多くキャンセル待ちの状態が多くあった。勇気を持って参加申し込みの電話をしてきた方ができるだけ参加できるよう、クラス分けなど日程や内容を調整をしていきたい。反対に、申込みはしたものの、子どもの体調や母親の体調不良により、当日キャンセルされる方も多く、参加費収入が不安定であり、継続するには費用的に大きな問題となる。また、参加者の約半数が育休中の母親であることを考えると、家庭で子育てしている人の中でも、育休中の人は仕事に復帰するまでの限られた時間を楽しむ傾向があり、また金銭的にも少し余裕がある為に参加につながっていると感じる。

本事業のような、不安な育児をしている人が親として子育て力をつけ自信を持って子育てができるようになる講座は、定期的開催し、より多くの方がいつでも安心して参加できることが望ましいが、現在の参加費収入だけでは運営費の確保ができず補助金がある時だけの不安定な開催になってしまう。また参加費が1回1,000円というのは限られた人のみの参加に留まっており、本当に受講してほしい方に情報提供しても金銭的なことで参加につながらないことが多く、とても残念に感じている。また、現在の子育て支援といえば、待機児童の削減をめざした保育所整備が主としてあげられることが多く、従来なら乳幼児から保育所に入園させる予定がなかった親子も、保育所へ入園させた方がよいと思ってしまうたり、入園させなければならないという風潮が感じられる。しかしながら、そういった流れは、「保育所でおむつがとれる」「保育所で栄養バランスのよい給食が食べさせてもらえる」と本来なら家庭で行われていた基本的な育児が家庭以外で行われ、家庭で悩みながら、葛藤しながらの育児が減少してくよう不安を感じる。今後、子どもが大きくなり、小学生、中学生と成長し、思春期の不安定な時期に親子が向き合える為には、本当は乳幼児期からの親子のかかわりの深さが大きく関係してくる為、家庭で子育てしている親子の支援を充実させるおいうことも、今後の子ども将来や社会において重要な役割をしめると考える。そういったことを踏まえ、亀岡の子育て環境の改善にむけて、亀岡市の子育て支援制度として取り組まれることを期待している。

4. 協働の効果

※企画提案型協働事業のみご記入ください。

事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。

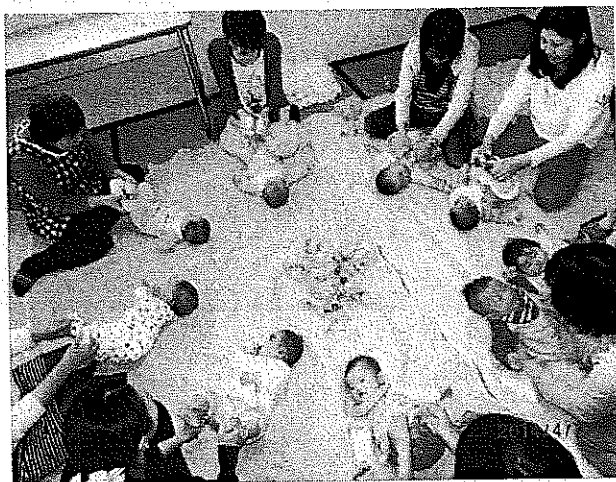
※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

【はじめてくらす (ベビーマッサージ)】



【ぐっぐくらす】



【ちっちくらす】



【ぱっぱくらす】

